

地震、津波、火災…岩手県・三陸海岸の沿岸部にある大槌町は東日本大震災で住民（約1万5000人）の1割近くが死亡、行方不明になる甚大な被害を受けた。震災直後から現地で支援に取り組み国際医療ボランティア・AMD A（本部・岡山市北区伊福町）の仲介で昨年3月に来岡した県立大槌高吹奏楽部と合同の「絆コンサート」を開いた就実高（同弓之町）は今月中旬、初めて大槌町を訪ねて2回目の共演を果たした。28日からは大槌高硬式野球部が交流試合のため来岡中。こちらも多くの熱い思いが重なって実現した。



岩手・大槌高と岡山県内の高校

大槌高硬式野球部員16人は28日夜、倉敷市入り。31日まで3泊4日の日程で、交流試合や美観地区観光などを予定している。

同市内の介護事業所に勤める園田広之さん(31)＝岡山市中区平井＝同校の佐々木雄洋監督が日体大野球部の同級という縁があり、資金面で倉敷商工会議所などの協力や市民からの寄付もあって実現した。ホテルに到着した部員を迎え入れた園田さんは「被災しながら野球に打ち込む皆さんに試合経験を積んでもらいたくて計画した。思い切ったプレーして、学んだことを今後に生かして」と激励。主将の2年佐藤大規君(17)に花束を手渡した。

「練習試合では勝利する思いを強く持ちながら、ゲームを楽しみたい」と佐藤君。引率の及川宏明部長は「生徒たちにとっては良い経験。一生懸命にプレーすることが招いてくださった皆さんへの恩返しになる」と話した。

29日は井原運動公園野球場(井原市)で興讓館高と対戦。3－8で敗れたが、試合後、両校選手は互いの攻守をたた

興讓館 倉敷商 野球部招き練習試合



園田さん(右)から花束を受け取る佐藤君。大槌高野球部員ら＝倉敷市＝サイドホテル

え合った。30日は倉敷商業高グラウンド(倉敷市)で同校と対戦した。(岸本渉)

復興 願い 友情の絆

就実高吹奏楽部は部員44人、顧問2人が15日から3泊4日の日程で大槌町を訪れた。17日に開いた2度目の「絆コンサート」は高台にあって、震災発生後に避難所になった城山公園体育館が会場。約50人の町民を前に、就実高は得意とするジャズナンバー「シング・シング・シング」や英国の作曲家が震災復興への願いを込めて作った「陽はまた昇る」を力いっぱい演奏した。大槌高の吹奏楽部員20人と合同演奏では東北地方の民謡メ

ドレーに続いて、人形劇「ひまわり」のテーマソングを披露。大津波に襲われた大槌湾には、島のモデルとされる「蓬莱島」が町のシンボルとして無事に残っており、ぴたり息のあった友情のハーモニに会場が沸いた。

フィナーレは「故郷」の合奏、合唱。会場と一体となった体育館を包み、目頭を押さえる町民もいた。就実高吹奏楽部の小林巧顧問(49)は「同級生や親、兄弟を失った大槌高の生徒もおり、「どんな気持ちで歌っているのだろうか…」とステージと一緒にいた私自身、思わず涙がこみ上げてきた」と言った。

両校の交流は大震災直後に始まり、就実高からは文房具や制服などを送った。同部長の2年清水一希さん(17)、副部長の1年山本航也君(16)は「『よかったよ』と涙声でお礼を言っていた私たちが勇気をもらった」「現地を体感することができ、地元の方が復興へ力いっぱい踏み出している姿に感激した」「忘れないで伝えていくことが私たちにできる」と「皆に語り継ぎ、大槌の仲間とも交流を続けたい」と話す。

今回、吹奏楽部員は大槌町にあるAMD A健康サポートセンターを訪れ、就実高の生徒・教職員から寄せられた復興支援金27万3000円を寄託した。大槌高からは、避難所になった同

現地で合同コンサート



終演後、「絆フラッグ」を手に永く交流を誓い合った就実高、大槌高の吹奏楽部員ら＝岩手県大槌町、城山公園体育館

校体育館で間仕切り用に使われた布に吹奏楽部員がメッセージを記したり手形を押しした「絆フラッグ」が贈られた。

現地の復興状況やコンサートの様子は、19日あった就実中・高の終業式でDVD映像で報告された。



絆コンサート2013 IN大槌

友情のハーモニを響かせたステージ

AMD A高校生会

就実・吹奏楽部



AMD A高校生会の6人も就実高吹奏楽部に同行して、コンサートの裏方を務めた。

ステージ準備や会場受け付け、司会役などをこなし、町民との交流やコンサート盛り上げに苦い力を発揮。幕間には、大槌町の高校生を岡山市に招いて実施している被災・復興状況の報告会や同世代交流事業、復興支援のための募金活動など紹介した。

(浅沼慎太郎 写真はAMD A、就実高提供)